

外国鶏投資はどうなるか？

国重ふ卵場(邑久郡邑久町)は、いまの外国鶏ブームのなかでも、いぜんとして日本鶏主体で事業を進めています。その場主国重宇太郎氏は、今はジタバタしないでジッと満を持して待っているべきときであるとして、外国鶏に対して、また養鶏農家についても批判をしております。

その言葉を参考になりますればと、ここにのせておきます。

外国鶏に過剰投資は不利

私も外国鶏はなかなかいいとは思っていますが、現在のような不景気ムードのなかで、外国鶏は投資しても儲かりはしません。ふ卵場が儲からないようなものは末端農家でも儲かりません。今のように外国鶏に先を競って過剰投資をしていると、そのしわよせがよけいに末端農家にかかるのではないかと心配です。

また1つには、我々はあくまで利潤の追求をしなければならぬわけですが、たかい外国鶏を扱って、その殆んどを中間マージンとして外国にもっていかれており、日本の養鶏界が苦勞して外国にブリーダーを儲けさせているような状態です。これではいけませんね。

日本鶏は決して悪くない

現在は、日本鶏が外国鶏におされてしまっていますが、私は決して日本鶏は悪くないと思っています。

今まで日本鶏を飼ってよくなかった農家は、それはふ卵場の選定が悪かったのだと思います。それに管理技術も極めて程度が低い。悪いヒナを導入して、しかも事後の管理がよくないので結果はわかっています。

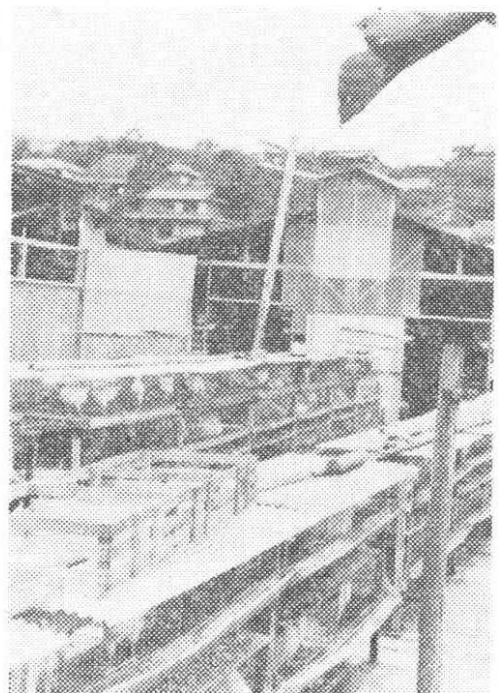
それに日本鶏は、雑種の研究がおくれています。日本鶏は産卵を第1目標に改良されてきましたが、あまりよくなりすぎてにわとりが弱くなったということがいえます。外国鶏は殆んどが雑種です。また、外国鶏の宣伝にまよわされている点もみられます。

これは、ふ卵場の経済力の違いが出ているのですから、あまり過信してはいけません。

これからは中卵で勝負

もう1つの卵重の面から私は外国鶏に先行き不安を感じるのです。

卵価が安いから、卵重を重くしようなどという考えは、まちがっていると思うのです。60グラム以上というような卵は、加工用でないといけないのです。卵が家庭で使われる性質というものは、各人に1コ、1コというぐあいで、これは大きな卵だから3人で2コ食べようというものではないのです。卵価が高くなれば60グラムも70グラムもする卵は1コ30円にもつくこととなります。こんな卵は一般消費には敬遠されます。とすると、外国鶏の卵重の大きいものをねらっている人は、小中卵(50~55グラム)より1キロ当り20円安見当で売らなければならぬこととなります。来年あたり、きっと現在の裏がくるような気がするのですが・・・・・・・・



露天の育すう場極めて成績はよいそうである。